

解説ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』

講談社選書メチエ 2019 年 7 月刊行

橋本努

目次

はじめに

序章 ウェーバーってどんな人？

0-1 こんな人生だった

0-2 業績の簡単なまとめ

0-3 『プロ倫』はどのような本か

第一章 「問題」はどこにあるのか？

1-1 プロテスタントの人たちは、なぜ経済的に成功したのか

1-2 問題をさらに練る

【コラム】ドイツにおけるカトリックとプロテスタントの割合の推移

第二章 資本主義の精神とはなにか？

2-1 ゾンバルトの定義を超えて

2-2 ベンジャミン・フランクリン

2-3 資本主義以前にも存在した？

【コラム】ウェーバー主義者とマルクス主義者の対話

2-4 金銭欲を否定する精神

2-5 伝統主義を克服する

2-6 人はなぜ働くのか

2-7 理念型について

【コラム】オランダの貿易商人ベイラント

【コラム】アルベルティの『家族論』

第三章 「天職」の概念が生まれた

- 3-1 「天職」概念の由来
- 3-2 マルティン・ルターの人生
- 3-3 ルターに同居する「革新」と「伝統」
- 3-4 プロテスタンティズムのキーワード解説

第四章 禁欲的プロテスタンティズムの倫理とはなにか？ Ⅰ

- 4-1 二重予定説の登場
- 4-2 ジャン・カルヴァンの人生
- 4-3 二重予定説の心理的インパクト
- 4-4 二つの間奏：カルヴァン派による近代化の特徴
 - (1) 脱呪術化と音楽
 - (2) ヴォエティウス vs. デカルト
- 4-5 四つの類型：中世の日常、修道院、ルター、カルヴァン派
 - 【コラム】修道院の生活
- 4-6 ルター派は重商主義の精神？

第五章 禁欲的プロテスタンティズムの倫理とはなにか？ Ⅱ

- 5-1 定義には二つの極がある
- 5-2 敬虔派
- 5-3 メソジスト派
 - 【コラム】メソジスト派の方法
- 5-4 洗礼主義の信団（バプティスト派・メノナイト派・クエーカー派）
 - 【コラム】日本人クエーカー、新渡戸稲造の職業論
- 5-5 まとめと考察

第六章 天職倫理と資本主義

- 6-1 「倫理」と「天職倫理」のあいだ——断絶説
- 6-2 バクスターの天職倫理
- 6-3 天職倫理をかかげる社会
- 6-4 新保守主義とは？
- 6-5 「プロ倫」テーゼを定式化する

6-6 梃子と幼少期と育成

第七章 現代社会で生きる術を考える

7-1 ウェーバーの答え

7-2 「最後の人間」

7-3 新しいリベラルに向けて

補論

8-1 ルターの「ベルーフ」論をめぐって

8-2 「プロ倫」テーゼは正しいのか?——実証的検証

あとがき

注